

第13回(2022年度)助成研究成果表彰 受賞者

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も16名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、5月26日開催の第49回通常理事会において、3名の方の受賞が決定いたしました。

なお、表彰式・受賞記念講演会は、別途開催する予定です。

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	坪内 直人	所属	北海道大学大学院工学研究院・准教授
助成研究期間	3年間：2016年11月～2019年10月		
研究テーマ	製鉄プロセスに係わる水銀の発生挙動と排出抑制		
研究成果	氏は、独自手法を用いて製鉄プロセスにおけるHgの発生挙動を解明した。また、もみ殻がHgを除去するための吸着材として非常に有望であることを発見した。鉄鋼業のみならず広い分野で環境問題として顕在化しつつあるHgの排出抑制につながる社会的意義の大きい研究成果である。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	秦 慎一	所属	山陽小野田市立山口東京理科大学工学部・助教
助成研究期間	2年間：2019年11月～2021年10月		
研究テーマ	工場の熱配管から生じる排熱を利用した環境発電シートへの設計		
研究成果	氏は、カーボンナノチューブについてn型材料の調整から挙動までを網羅的に調査した結果、安定で軽量かつ柔軟な熱電変換材料の特性を確認した。この研究は、未回収の低温排熱を有効に利用できる、発電モジュール実現への貢献が期待される発展性の高い研究成果である。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	夏井 俊悟	所属	東北大学多元物質科学研究所・准教授
助成研究期間	2年間：2019年11月～2021年10月		
研究テーマ	N相界面の動力学と位相的データ解析に基づく高炉下部の定量評価		
研究成果	氏は、高炉内充填層での分散N相挙動を原材料粒子以下のスケールで明示的に解析できる次世代の高炉モデルを確立した。さらに高炉モデルを使い、CO2排出削減に貢献する低炭素高炉（低コークス比）の操業設計指針につながる実用性の高い、学術的にも意義の大きい研究成果である。		

以上